

1. 生成 AI の概要

- ①膨大な量の情報から「統計的にそれらしい応答」を生成する。
- ②指示文の工夫で、より確実な結果が得られるとともに、今後さらなる精度の向上も見込まれている。
- ③回答は誤りを含む可能性があり、時には事実と全く異なる内容や、文脈と無関係な内容などが出力されることもある。
- ④データの学習方法、学習データの作成方法、回答のアルゴリズムが不明など「透明性に関する懸念」が指摘されている。
- ⑤機密情報の漏洩、個人情報の不適切な利用、回答の内容の偏りなど「信頼性に関する懸念」が指摘されている。

2. 情報モラル

情報社会で適正な活動を行うための基となる考え方と態度を身に付ける必要があります。

情報モラルの判断に必要な要素

日常モラル

- ①節度
・やりたいことを我慢する。等
- ②思慮
・情報を正しく判断する。等
- ③思いやり・礼儀
・適切なコミュニケーション。等
- ④正義、規範
・情報社会のルールを守る。等

情報技術の仕組み

- ①インターネットの特性
・残存性、伝搬性、複製性、公開性、記録性、
信憑性、公共性、流出性。等
- ②心理的・身体的特性
・夢中になってやめられない。
・感情的になりやすい。等
- ③機器やサービスの特性
・いつでもどこでもつながる。
・様々な誘惑がある。等

注意すべき点(例)

- ①著作権を侵害しない
著作物を基に、生成AIが作成した文書やイラストを利用することは、著作権侵害に当たる可能性がある。
- ②個人情報を入力しない
指示文に個人情報を入力すると、個人情報が流出する可能性がある。
- ③情報の真偽を確かめることを習慣づける
生成AIの回答には、虚偽の内容が含まれている恐れがある。
- ④限定的な利用にとどめる
批判的思考力や創造性への悪影響、個人情報流出などの懸念がある。

3. 適切でない使い方(例)

- ①情報モラルについて十分に理解していない段階において、生成AIを自由に使う。
- ②個人情報や指示文を入力して生成AIを使う。
- ③生成AIの学習データとして利用されないように設定(オプトアウト)しないまま、情報を入力する。
- ④調べ学習で教科書などの教材を使う前に生成AIを安易に使い、そのまま利用する。
- ⑤生成AIの利用を想定していないコンクールにおいて、自分の作品として提出する。
- ⑥詩や俳句の創作、音楽・美術等の表現・鑑賞など感性や創造性などが必要な場面において生成AIを安易に使い、そのまま利用する。



4. 適切な使い方(例)

- ①グループ学習の際、考えをまとめたり、足りない視点を見つけたりするために、生成AIを使う。
- ②グループ学習の際、議論を深めるために、生成AIの回答を話し合いに活用する。
- ③調べ学習をする際、情報を収集するために、生成AIを使う。
- ④レポート等を書く際、推敲するために、自作のレポートを生成AIに修正させたものを「たたき台」として使う。
- ⑤レポート等を書く際、自作のレポートの素案に足りない観点などを補充するために生成AIを使う。
- ⑥レポート等を推敲する際、生成AIに評価してもらったり、修正箇所を提案してもらったりする。
- ⑦自分の回答を見直す際、生成AIの回答と比較する。
- ⑧生成AIをめぐる社会的論議について素材として活用し、主体的に考え、議論する。



5. チェックリスト

- 生成AIツールの利用規約(未成年は保護者同意等)を理解している。
- 生成AIの性質やメリット・デメリット、情報の真偽を確かめるような使い方等について事前学習をしている。
- 個人情報やプライバシーに関する情報、機密情報を入力しない。
- 入力した情報が、生成AIの学習データとして利用されないように設定(オプトアウト)する。また、毎回、使用する前に設定を確認する。
- 著作権の侵害につながるような使い方をしない。
- 生成AIを利用した成果物については、生成AIを利用した旨や引用をしていることを明示する。
- 生成AIを利用する前に、まずは自分で考え、表現する。
- 生成AIを自分が知っている知識の範囲内(正誤の判断ができる範囲)で利用する。
- 生成AIに全てを委ねるのではなく、最後は自分で考え判断する。
- 読書感想文等において、生成AIによる生成物を応募・提出することは不適切又は不正な行為のため、絶対にしない。

